

パワーオブドリーム

秋田県大仙市立中仙中学校

三年 千葉 明日美

私は大仙ふるさと博士です。

これは、私が住んでいる秋田県大仙市で昨年から始まった活動で、地域行事への参加や施設などでの見学・体験を通して、自分から地域と関わろうという取り組みです。私は、今年の夏、一番乗りで上級を取得することができました。自分のふるさと・大仙を愛する私にとって、この認定はとても誇らしく、次への自信につながりました。地域の皆さんが私にパワーをくれたのです。

さまざまな地域行事に参加する中で、私が一番力を入れたのは「長野ささら」の活動です。ささらは、大仙市の中でも私の住む中仙地域に伝承されている伝統芸能で、一六〇二年にこの地域に伝えられてから今日まで四百年もの間、守り継がれてきた獅子舞です。八月の十三日から十六日までの四日間、長野地区の各町内で演舞されます。

私がささらと出会ったのは0歳の時ですが、小さい頃はささらを「怖い鬼」だと思い、逃げまわっていました。それがなぜか小学校に入るとささらに興味を持つようになり、五年生のときに長野ささらクラブに入りました。クラブでは舞の練習を頑張り、学校行事や地域行事で披露しました。実際に演じて

みると、十分以上もある舞を踊りきった達成感や満足感は今までに感じたことがないくらい大きいものでした。そして私は、だんだんささらの虜になっていったのです。小学校を卒業した私は、ささらの継承活動に自分も加わりたいと思うようになり、長野ささら保存会に入りました。すると今度は、私は笛の担当となり、ささらを今までは別の視点で捉えるようになりました。小学生の頃はささらを「踊る側」でした。保存会の方々に振りを教えてもらい、それをステージで踊る、つまりささらを「伝承してもらう側」だったのです。それが保存会に入ると、ささらを「伝承していく側」になりました。それまでは教えてもらったとおりに覚えるだけだった私が、今度は小学生に教える立場になったのです。そして、実際に教える側になってみると、自分が伝えたいことをうまく言葉で言い表せなかったり、振りの意味を理解してもらえなかったりと、思っていた以上に難しいと感じました。しかし、教えることを通して、長野ささらが今日まで演舞され続けているのは、先人たちの努力の証だと気付いたのです。そして私は、「もつと長野ささらを広めたい。後世に伝え、残したい。」と強く思うようになりました。そこで私は「笛をマスターする」という目標を立てました。それが中学生の私にもできる、一番良い方法だと思ったからです。

私は、今年の八月、小学校のクラブの練習に毎日通いました。七人のクラブ員と保存会の皆さん、合わせて十四人ほどのメンバーで毎日二時間練習しました。八月十六日に中仙地域最大のお祭り・ドンパン祭りで演舞するためです。約二週間の練習で私は子供ささらの「恋慕」の笛を覚えることができました。これで私の目標に一步近づいたと思います。そしてなんとといっても、クラブ員のみんなが「ささら

を広めたいという思いを胸に練習している」と言ってくれたことが、とても嬉しかったです。伝統は受け継がれていると感じました。さらに、このお祭りで小学生の演舞を見た人が、少しでもささらに興味を持ってくれたらもつと嬉しいです。

このように私はこの夏、今まで以上にささらと向き合い、保存会の今後について考えました。私はこれから、ささらの継承活動に取り組んでいきたいと思っています。四百年もの間、先人たちの工夫と努力によって受け継がれてきたささらを、私たちは次の世代、また次の世代へと伝えていかなければなりません。私が「伝承してもらう側」から「伝承していく側」になったように、小学校のクラブ活動やどこかでささらを見てくれた子供たちが、ささらに関心を持ち、保存会に入ってくればいいなと思っています。

そしてなんとといっても、「長野ささら保存会」の皆さんは、私にパワーをくれる第二の家族のような存在です。年齢は離れていても、みんな「ささらを後世に残したい」という強い思いを胸に活動しています。一番年下の私が言うのも生意気ですが、大切な仲間です。この皆さんに出会えて、本当によかったと思っています。

百年後の未来にも、このふるさとに長野ささらがしっかりと伝承されていることを願い、私はこれからも邁進していきます。大仙ふるさと博士のバッジを胸に、地域の皆さんからいただいたパワーを、今度は私が恩返しします。